

業務改善を進めるための課題

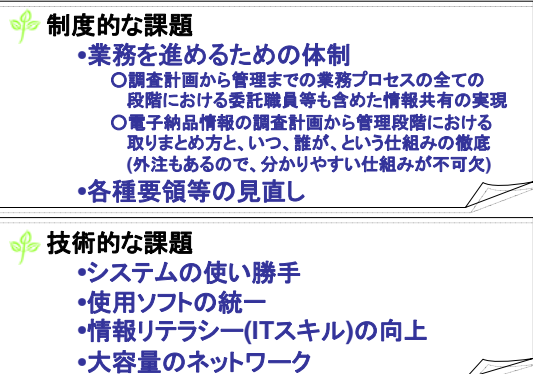
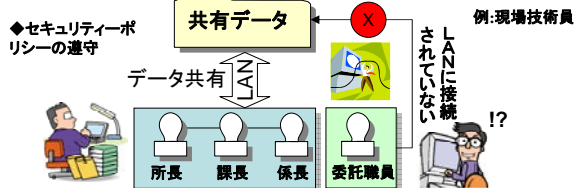


図 4-6 今後の課題図

今後の解決に向けた方向性

●職員全体での情報共有をはかる
●CALA/EC推進には委託職員等も取り込んだ情報共有が必要



●調査～管理までの各レベルでの情報共有がCALA/ECを進める上では不可欠

図 4-7 解決に向けた方向性

4.2.3 業務改善：事例-2「北陸技術事務所」

【電子納品保管・管理システムの利活用】

4.2.3.1 目的

社会資本整備の重点課題として既存ストックの有効活用が打ち出されており、設計・施工・維持管理等、管理施設の履歴データの収集・提供体制の強化がこれまで以上に重要となっている。しかし、それらのデータは報告書による保存やデータベース化など、いろいろな形で管理されており、体系的な整備が図られておらず、CALA/EC を踏まえたデータの有効利用を図る必要がある。

現在、電子納品を登録・利活用する目的で、全国的に「電子納品保管・管理システム（以下『電子納品システム』という）」の検討・運用が進められている。このシステムを成果品の保管・管理だけでなく、日常業務、防災業務などに役立つものと期待される。今回北技では、他のシステムとの連携による既存データの有効活用が出来るように検討を行うと共に、平成 16 年度より工事完成図書については全て電子納品となることによって、各事務所から北技に電子成果物が送付される時に、円滑に受付と登録が出来るように「電子納品受付管理システム」（以下『受付管理システム』という）も併せてシステム開発の検討を行った。なお、図 4-8 に電子納品の一連の流れを示す。



図 4-8 電子納品の流れ

4.2.3.2 概要

現在、当地方整備局のイントラネット上で、北技で運用している技術情報提供支援システム（以下「TIOSS」という、[図 4-9](#) 参照）との連携を基本に、既存システムとの連携・統合などを行い業務改善、業務の効率化が図られるように検討した。

調査は平成 15～17 年度の 3 カ年でシステムの検討、システム構築およびシステムの検証を行なう。[表 4-3](#) に調査の全体計画を示す。

なお、TIOSS とは、北技で収集・受付した技術情報を当地整職員に提供、共有し業務の効率化を目的に開発したもので、[図 4-9](#) のとおり工事図面検索、地質情報、技術文献、図書文献および新技術活用関連の情報が閲覧検索出来るシステムである。また、[図 4-10](#) に電子納品システムのイメージ図を示す。



図 4-9 TIOSS のトップ画面

表 4-3 調査全体計画

	H15	H16	H17
システムの検討構築			
システムの検証			